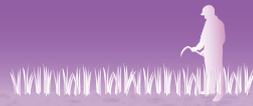


アライグマの被害防止

入れない・捨てない・拡げない



北アメリカからペットとして日本に持ち込まれたアライグマ。今では、野生化したものが増加し、分布を拡大しています。それにともない、農作物被害や生態系への脅威を引き起こしているため、被害防止や捕獲など、早急な対応が必要です。



生態と分布

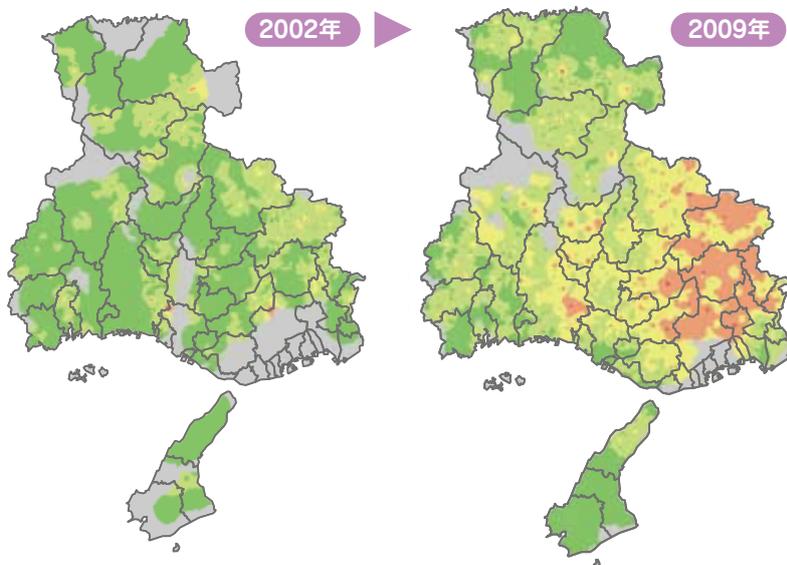
適応力の高さで被害が深刻化！

生息 平地から山地まで幅広く生息することができ、中でも水辺環境を好みます。適応能力も高く、民家の屋根裏や神社などをすみかにすることがあります。

食性 雑食性で、木の実や農作物、カエルや魚、昆虫など何でも食べます。

繁殖 メスは1歳で出産します。年1回、3～6頭（平均4頭）の子どもを産みます。

特徴 するどい爪や歯を持ち、個体によっては気性が荒く、引っかいたり噛みついたりすることもあります。



分布

兵庫県では1990年代に初めて神戸市を中心に生息が確認されました。以降加速度的に分布を拡げ、現在では県南東部を中心に多くの市町で確認され、被害も深刻化しています。

- 生息情報なし
- ほとんどない
- 軽微
- 大きい（生産量の30%以下）
- 深刻（生産量の30%以上）
- データなし

被害の程度
(鳥獣害アンケートより)

外来生物法

「飼育」「放獣」「生きたままでの移動」は法律で禁止されています。

(外来生物法：平成17年6月1日施行)

これ以上の分布拡大を防ぎましょう。



飼わない



放さない



動かさない



被害状況

農作物への被害

収穫期の田畑や果樹園などに侵入し、農作物を食べます。被害が多い農作物はトウモロコシ、スイカ、ブドウ、イチゴなどです。

分布拡大にともない、農業被害額も増加し、2009年には7,168万円にのぼっています。



スイカ

中をくり抜いて器用に食べます。



トウモロコシ

両手を使い、まわりの皮をむいて、上手に食べます。

生活環境への被害

- アライグマの母親が屋根裏などに侵入し、出産や子育てをします。
- 家を糞尿で汚したり、柱や壁を引っかいて傷つけます。
- 生ゴミをあさるなどの衛生上の問題が起こります。



屋根裏で育った子ども



ひっかかれた寺の柱



屋根裏から染み出た糞尿

生態系への影響

日本に生息している在来の生物や生態系に影響を及ぼすことが心配されています。

- アライグマに食べられる小動物
(小鳥、魚、カエル、カニなど)
- アライグマと食物や生息域が競合する動物
(タヌキ、キツネ、テンなど)



共通感染症の媒介

- 日本になかった感染症を持ち込む可能性があります。
- ①狂犬病、②アライグマ回虫症、③鳥インフルエンザなどを媒介するおそれがあります。
(①、②は日本に野生化したアライグマからは確認されていませんが、注意が必要です。)



鋭い犬歯

注意

- ❗ アライグマには絶対に素手でふれないようにしましょう。
- ❗ 糞尿の処理は慎重に！マスクやゴム手袋などを着用しましょう。



- ❗ 作業の後はしっかり手を洗いましょう。





被害対策



餌付けの禁止・誘引物の除去

アライグマに限らず、野生動物に餌を与えることはやめましょう。繰り返して出てくるようになり、人なれが進んで被害が増えます。繁殖率も上がり、生息範囲を広げることにもつながります。



無意識の餌付け

生ゴミや収穫しない作物などを放置しておく、餌付けと同じことになります。撤去できる物は取り除き、できない物は囲うなど防護しましょう。



防護柵

ネット柵や金網柵はよじ登られてしまうので、電気柵が効果的です。地上から10 cm間隔で、3～4本柵線を張りましょう。そのほか、電気柵とトタンの組み合わせや「獣堀くん」も、高い効果が期待できます。

電気柵+トタン

電気柵

ワイヤーの間隔を5cmにして2～3本張ります。

トタン

下部10 cm程度を地面に埋め込みます。



トタンでもぐりこみを防止し、登ったところで、感電させます。

獣堀くん

山梨県開発：多獣種対応型電気柵

金網 (メタルス)

高さ60cmのメタルスを張り、電牧器につなぎます。

塩ビ製畦波板

幅35cmの波板をしき、その上に電気柵を設置。



金網に電気を流して、面的に侵入を防ぎます。波板を敷くことで、地面と絶縁するとともに、雑草による漏電を防止します。



民家侵入防止

春から初夏は、出産や育児のため、屋根裏などへの侵入が多くなります。建物の隙間をできるだけふさぎましょう。

侵入されたら、爪あとなどで侵入ルートを特定し、アライグマがエサを探しに外に出て行ったのを確認してから出入り口をふさぎます。また、その周辺で捕獲を試みるのもよいでしょう。



屋根の上を移動する親子



屋根裏につながる隙間



捕獲

アライグマは、放っておくと分布を拡大して、さらに問題を起こします。積極的に捕獲し、地域からの排除をめざす必要があります。

箱わな



中に餌を置き、誘引された動物が入ると出入口が閉まる仕掛けです。動物を傷つけることが少なく、特殊な技能がいらないもっとも一般的なわなです。



エッグトラップ



わなの中のエサを取り出そうとして、アライグマが手を入れると仕掛けが作動し手首がくくられます。誤って他の動物が捕まりにくいのが特徴です。



※捕獲には「捕獲許可」が必要です。

鳥獣保護法に基づく有害鳥獣捕獲と、外来生物法に基づいた捕獲ができます。詳細は、市役所・町役場にお問い合わせ下さい。



他の動物との見分け方

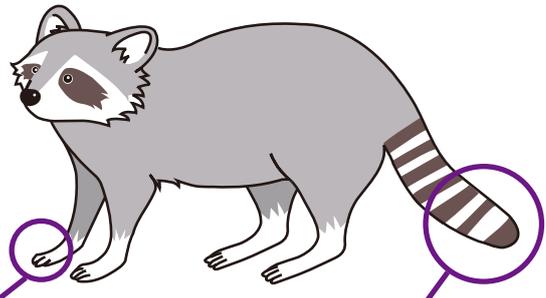
動物によって被害対策の方法が違います。効果的な対策をとるためにも、アライグマと他の動物を見分ける必要があります。

アライグマ

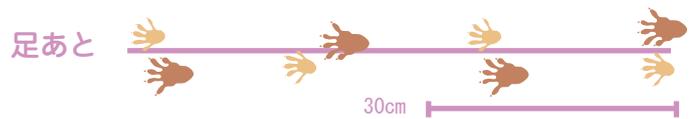
食肉目 アライグマ科
体重：6～10kg
体長：40～60cm

目の周りが黒く、白い眉があるように見えます。尾のしま模様は他の動物と見分けるポイントになります。

指が長く器用に物をつかむことができます。足跡にもその特徴が表れ、5本の指のあとがつけます。



尾は黒色と茶褐色の縞模様。

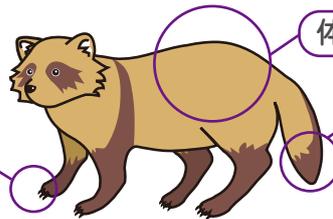


間違いやすい動物

タヌキやアナグマは里山などにすむ、日本の代表的な哺乳類です。

タヌキ

食肉目
イヌ科
体重：4～8kg



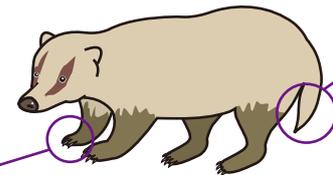
体の色が全体的に茶色

尾に模様がない



アナグマ

食肉目
イタチ科
体重：5～14kg



尾が短い

足が太くて短い

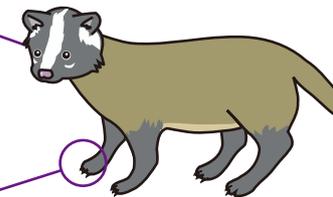


ハクビシン

食肉目
ジャコウネコ科
体重：3～5kg



顔に白い筋模様



尾が細長い



*外来生物です。近年兵庫県内での生息情報が増えています。

